

佐賀県の地震活動概況（2024 年 4 月）

令和 6 年 5 月 13 日
佐賀地方気象台

【4 月の地震活動概況】

4 月に佐賀県内で震度 1 以上を観測した地震は 4 回（下図領域外）でした（3 月は 1 回）。

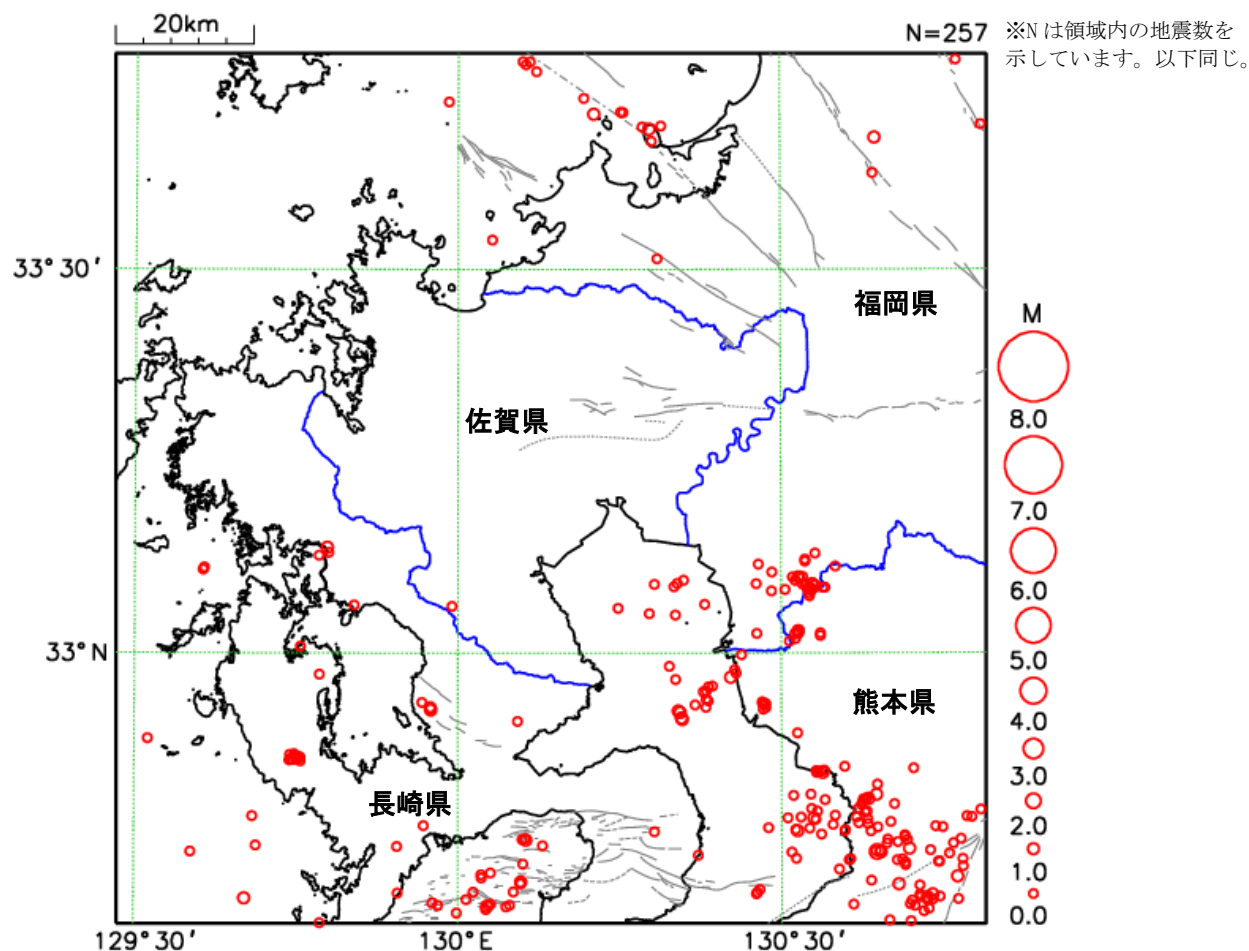


図 1 震央分布図（2024 年 4 月 1 日～30 日、深さ 30km 以浅、 $M \geq 0.0$ ）
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

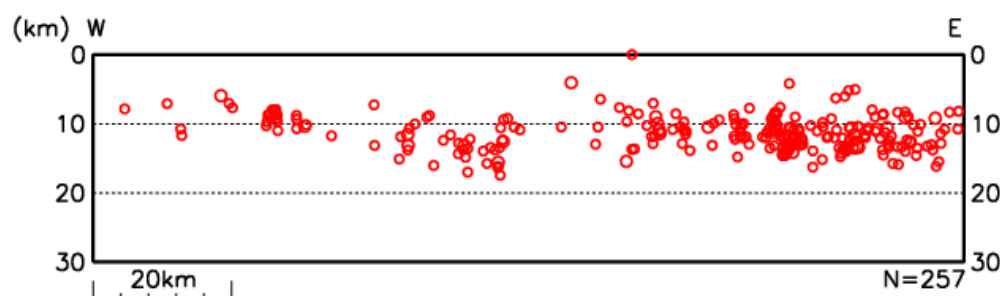


図 2 断面図（2024 年 4 月 1 日～30 日、深さ 30km 以浅）
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

大隅半島東方沖（1 頁震央分布図領域外）

8 日 10 時 25 分に大隅半島東方沖で M5.1 の地震（深さ 39km）が発生し、宮崎県日南市で震度 5 弱を観測したほか、九州地方で震度 4～1 を観測しました。佐賀県では、佐賀市、神埼市、白石町、上峰町で震度 1 を観測しました（図 3、表 1）。

今回の地震の震源付近（図 5 領域 b）では、2022 年 12 月 18 日に M5.4 の地震（深さ 34km、最大震度 4）が発生し、佐賀県では佐賀市、神埼市などで震度 2 を観測したほか、県南部を中心に震度 1 を観測しました（図 4～図 6）。

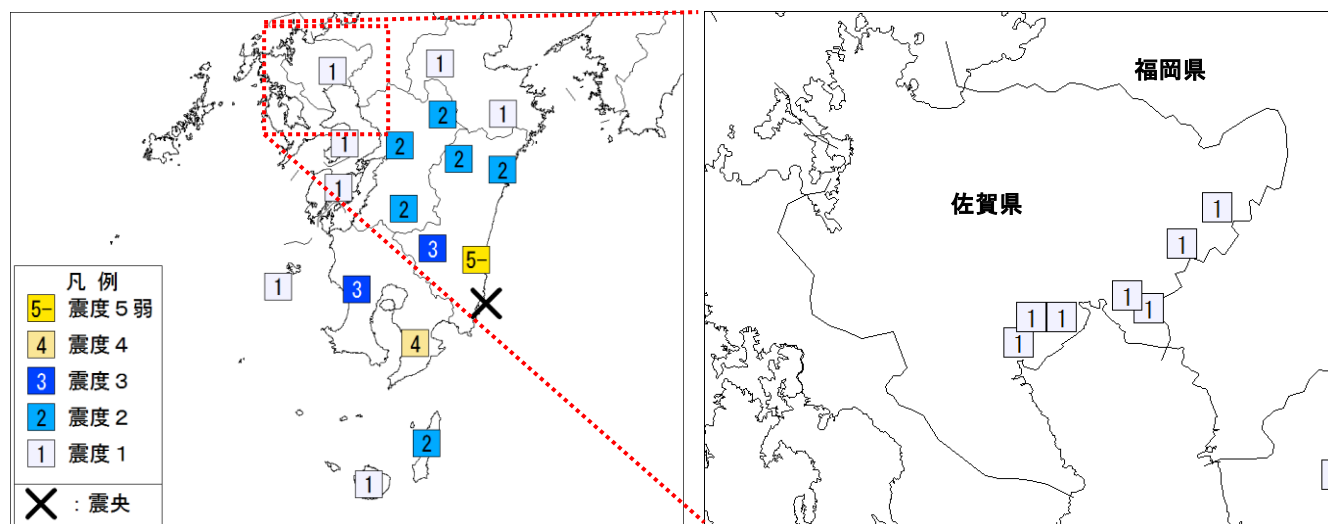


図 3 震度分布図 8 日 10 時 25 分 M5.1
(左図は地域別、右図は観測点別)

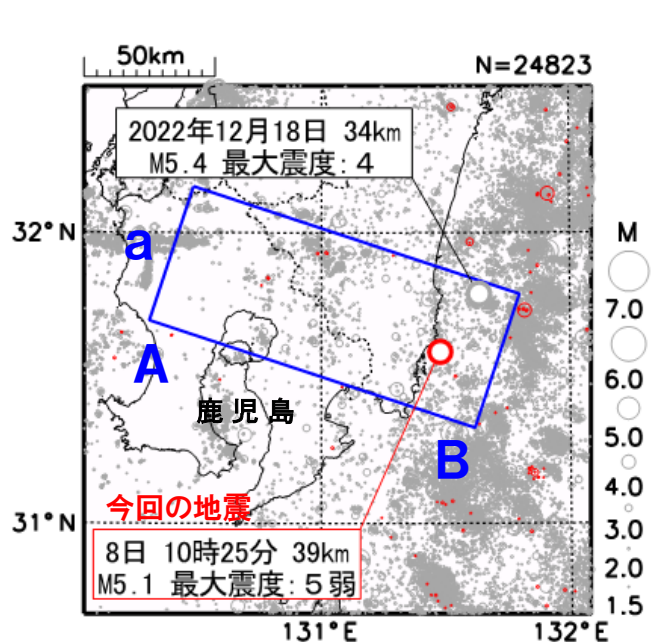


図 4 震央分布図
(1997 年 10 月 1 日～2024 年 4 月 30 日、
深さ 0～100km M≥1.5)
※2024 年 4 月以降の地震を赤色で表示

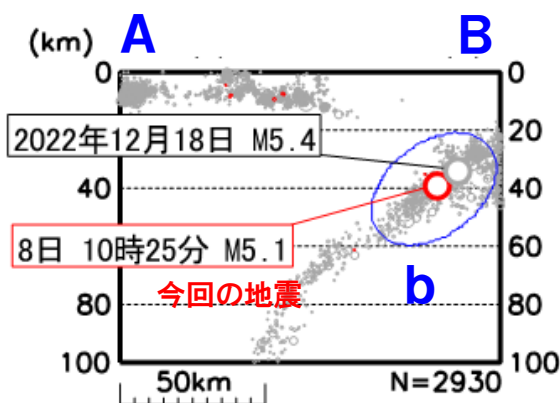


図 5 図 4 領域 a 内の断面図（A－B 投影）

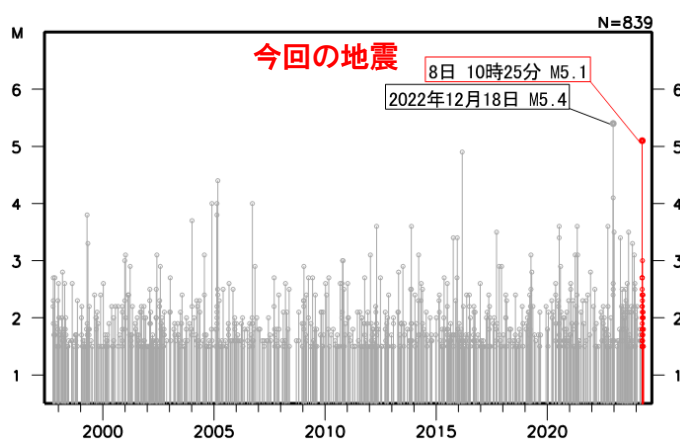


図 6 図 5 領域 b の地震活動経過図

日向灘（1 頁震央分布図領域外）

8 日 13 時 57 分に日向灘で M4.5 の地震（深さ 28km）が発生し、宮崎県の延岡市、日南市、大分県佐伯市などで震度 2 を観測したほか、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県で震度 1 を観測しました。佐賀県では、神埼市で震度 1 を観測しました（図 7、表 1）。

今回の地震の震源付近（図 9 領域 d）では、2015 年 8 月 26 日に M5.2 の地震（深さ 34km、最大震度 4）が発生し、佐賀県では佐賀市、神埼市などで震度 2 を観測したほか、県南部を中心に震度 1 を観測しました（図 8～図 10）。

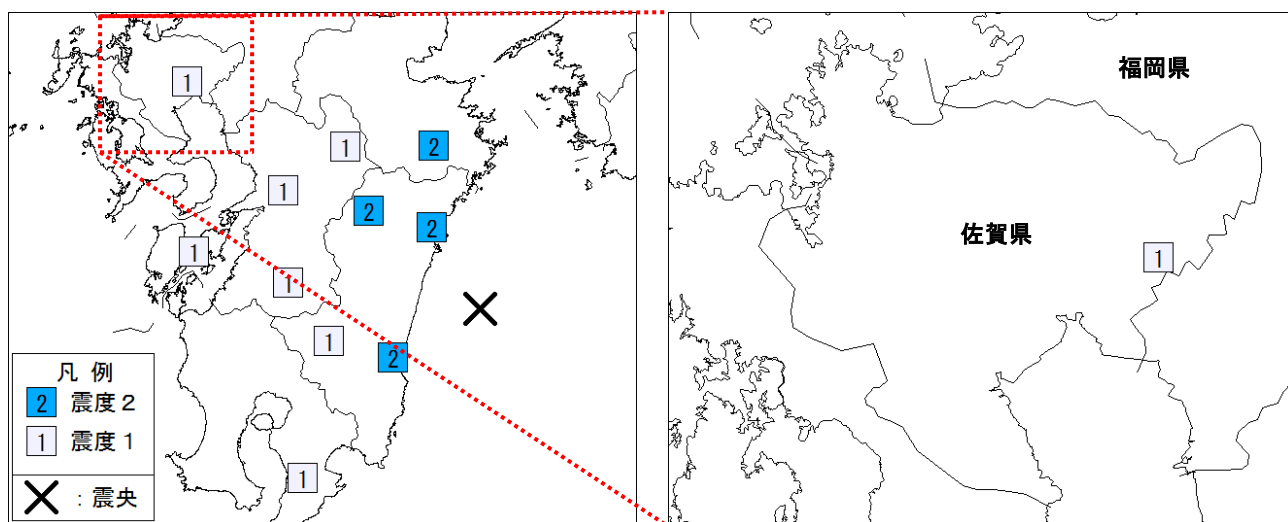


図 7 震度分布図 8 日 13 時 57 分 M4.5
(左図は地域別、右図は観測点別)

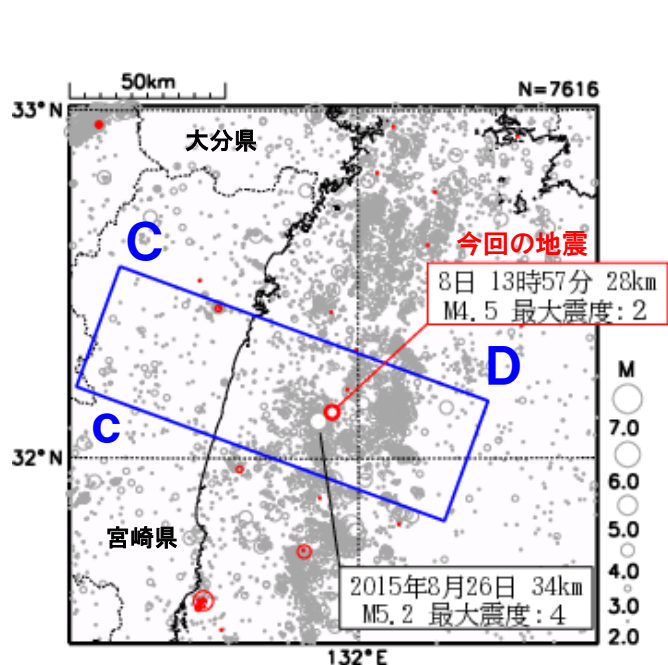


図 8 震央分布図
(1997 年 10 月 1 日～2024 年 4 月 30 日、
深さ 0～100km M $\geq$ 2.0)
※2024 年 4 月以降の地震を赤色で表示

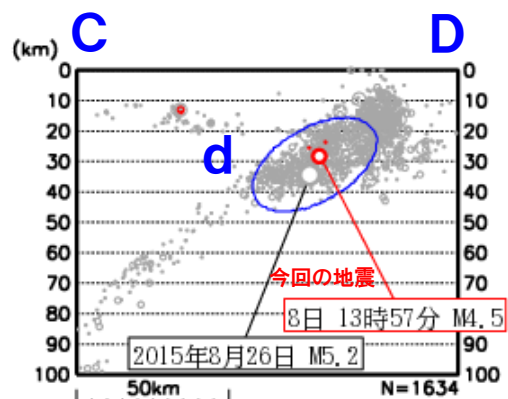


図 9 図 8 領域 c 内の断面図（C－D 投影）

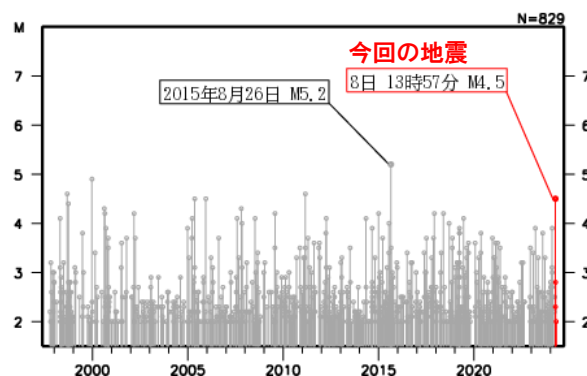


図 10 図 9 領域 d の地震活動経過図

豊後水道（1 頁震央分布図領域外）

17 日 23 時 14 分に豊後水道で M6.6 の地震（深さ 39km）が発生し、愛媛県愛南町、高知県宿毛市で震度 6 弱を観測したほか、九州地方から関東地方にかけて震度 5 強～1 を観測しました。佐賀県では、佐賀市、神埼市、白石町、みやき町、上峰町で震度 3 を観測したほか、県内の広い範囲で震度 2～1 を観測しました（図 11、表 1）。また、同日 23 時 19 分にほぼ同じ場所で M5.1 の地震（深さ 41km）が発生し、高知県宿毛市、愛媛県の宇和島市、愛南町で震度 4 を観測したほか、九州地方、四国地方、中国地方で震度 3～1 を観測しました。佐賀県では、佐賀市、神埼市、みやき町で震度 1 を観測しました（図 11、表 1）。この地震により、愛媛県、高知県などで負傷者 16 人などの被害が生じました（4 月 25 日 16 時 00 分現在、総務省消防庁による）。

今回の地震の震源付近（図 13 領域 f）で発生した地震により、佐賀県内で震度 1 以上を観測したのは、地方公共団体（佐賀県）の震度データの活用を開始した 2001 年 3 月 22 日以降初めてです（図 12～図 14）。

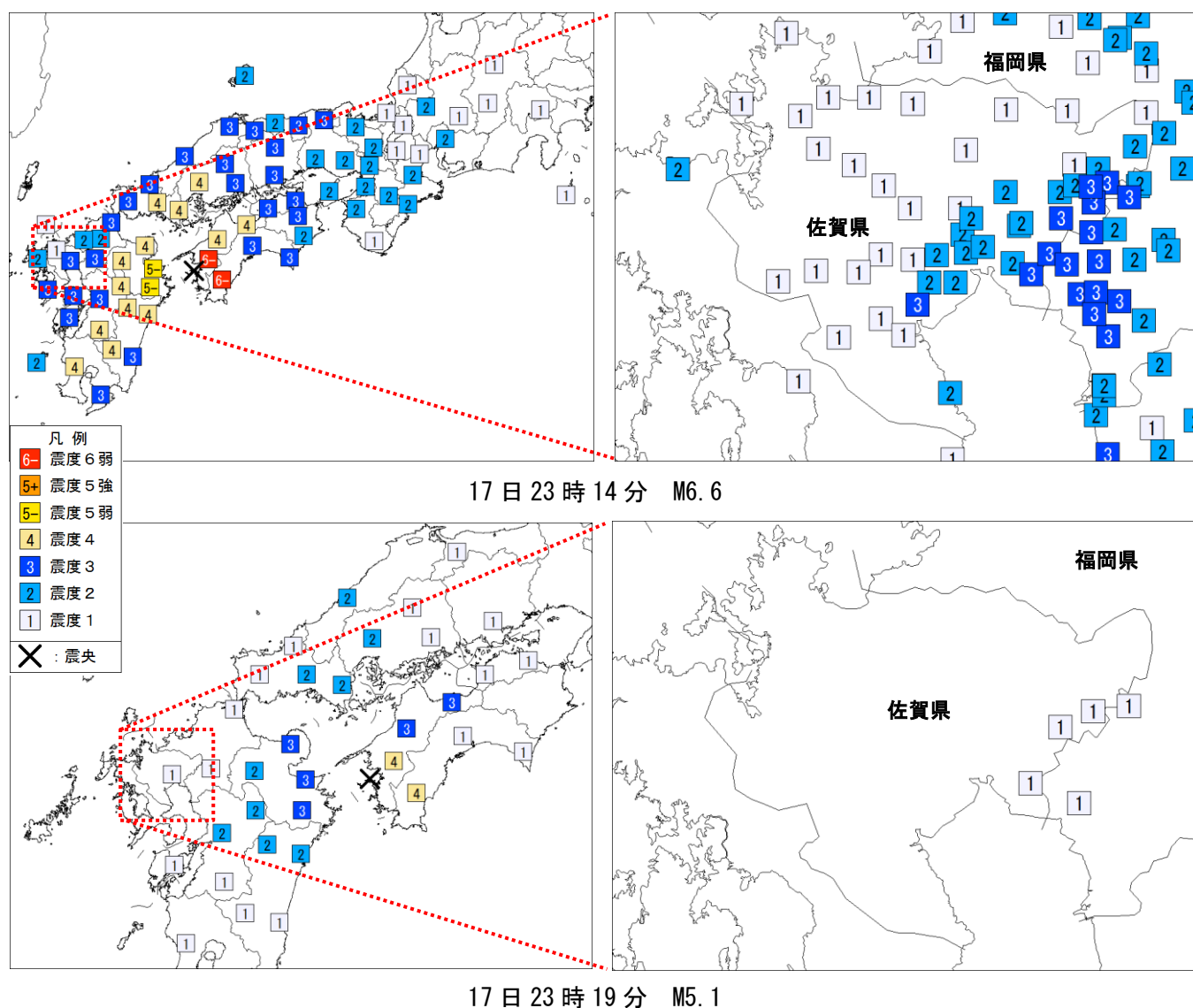


図 11 震度分布図（左図は地域別、右図は観測点別）

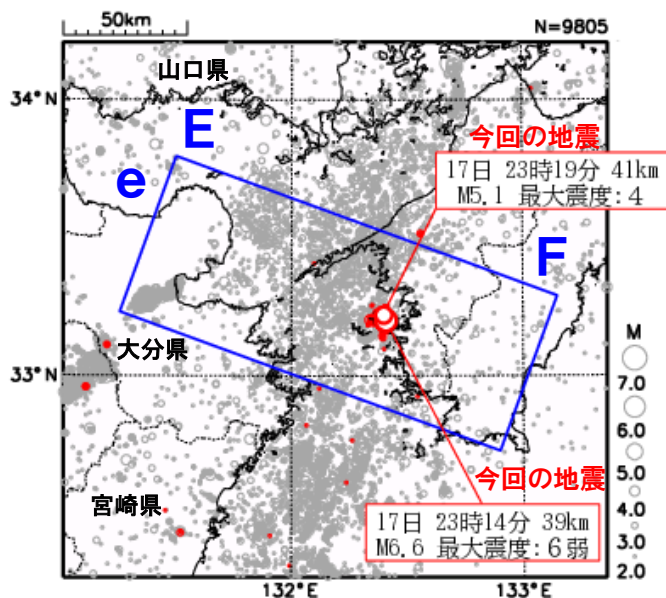


図 12 震央分布図
(1997 年 10 月 1 日～2024 年 4 月 30 日、
深さ 0～100km $M \geq 2.0$)
※2024 年 4 月の地震を赤色で表示

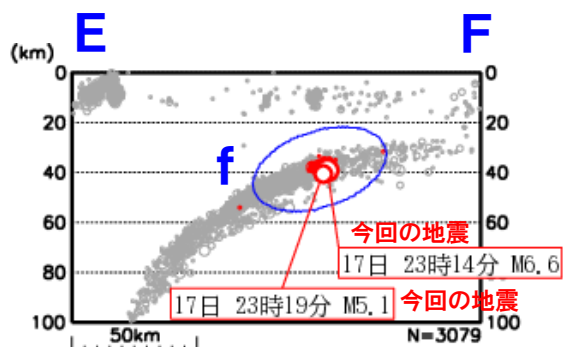


図 13 図 12 領域 e 内の断面図 (E - F 投影)

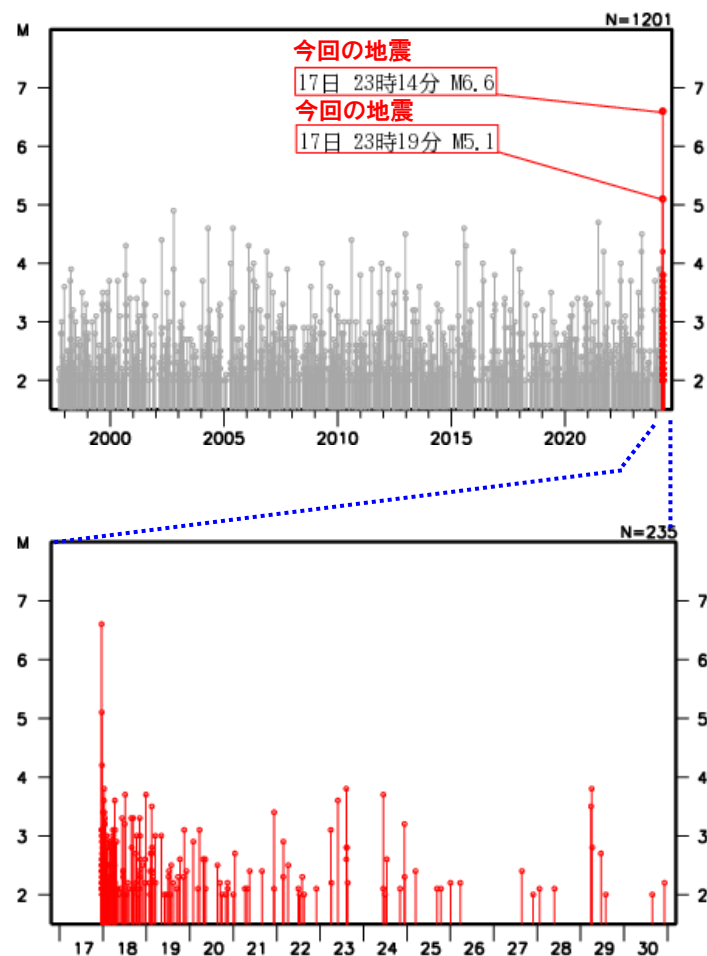


図 14 図 13 領域 f の地震活動経過図
上段 : 1997 年 10 月 1 日～2024 年 4 月 30 日
下段 : 2024 年 4 月 17 日～2024 年 4 月 30 日

表 1 佐賀県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震 (2024 年 4 月 1 日～30 日)

地震発生日時刻	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
4 月 8 日 10 時 25 分 佐賀県	大隅半島東方沖	31 ° 35.4' N	131 ° 28.6' E	39km	M5.1
震度 1 : 佐賀市東与賀＊, 佐賀市川副＊, 上峰町坊所＊, 白石町福田＊, 白石町福富＊, 白石町有明＊, 神崎市千代田＊					
4 月 8 日 13 時 57 分 佐賀県	日向灘	32 ° 08.0' N	131 ° 54.6' E	28km	M4.5
震度 1 : 神崎市千代田＊					
4 月 17 日 23 時 14 分 佐賀県	豊後水道	33 ° 12.0' N	132 ° 24.5' E	39km	M6.6
震度 3 : 佐賀市諸富＊, 佐賀市川副＊, 上峰町坊所＊, 白石町有明＊, みやき町三根＊, みやき町北茂安＊, 神崎市千代田＊					
震度 2 : 佐賀市駅前中央, 佐賀市栄町＊, 佐賀市大和＊, 佐賀市東与賀＊, 佐賀市久保田＊, 鳥栖市宿町＊, 江北町山口＊, 白石町福田＊, 白石町福富＊, 太良町多良, みやき町中原＊, 小城市三日月＊, 小城市芦刈＊, 小城市牛津＊, 吉野ヶ里町三田川＊, 神崎市神埼＊					
震度 1 : 唐津市西城内, 唐津市竹木場＊, 唐津市巖木町＊, 唐津市七山＊, 唐津市相知＊, 唐津市北波多＊, 唐津市肥前＊, 唐津市呼子＊, 唐津市浜玉＊, 有田町本町＊, 佐賀市富士町＊, 佐賀市三瀬＊, 多久市北多久町＊, 武雄市山内＊, 武雄市武雄町昭和＊, 武雄市北方＊, 佐賀鹿島市納富分＊, 基山町宮浦＊, 大町町大町＊, 小城市小城＊, 嬉野市塩田＊, 嬉野市下宿乙＊, 吉野ヶ里町東脊振＊					
4 月 17 日 23 時 19 分 佐賀県	豊後水道	33 ° 13.2' N	132 ° 23.9' E	41km	M5.1
震度 1 : 佐賀市川副＊, みやき町三根＊, 神崎市千代田＊					

- ・「＊」の付いた地点は、佐賀県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。
- ・地震の震源要素（緯度・経度・深さ・M）は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

地震資料に掲載される図の見方

佐賀地方気象台では、地方公共団体等による日頃の災害予防の活動を支援するため、佐賀県内の地震活動概況を作成し公表しています。また、佐賀県で震度4以上の揺れを観測した場合や佐賀県の沿岸に津波警報等を発表した場合には、防災対応に資するために地震解説資料を公表しています。

今回は、「平成28年(2016年)熊本地震」を例として、これらの資料に使用される主な図の見方について解説します。

1. 震度分布図(図1)

震度分布図は、各地の震度観測点で観測した震度を地図上に表示し、地震による揺れの強さや範囲を表現したものです。震度5と震度6にはそれぞれ強弱があり、例えば震度6強は「6+」、震度6弱は「6-」と表示します。また、地震による揺れが広範囲にわたる場合には、図が煩雑にならないように、各地域内、各市区町村内で観測した震度の中で最も大きな震度を代表させて表示することがあります(図1は地域別の震度分布図の例)。

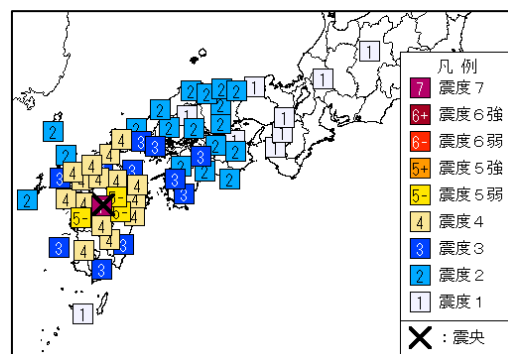


図1 震度分布図(地域別)

2. 震央分布図(図2)、断面図(図3)

震央分布図は、地震が発生した場所を地図上に表示し、地震活動の面的な広がりを表現したものです。表示するシンボルの大きさを変えることで、地震の規模(マグニチュード、以下、「M」)を表現しています。なお、地震の発生した深さをシンボルの形を変えて表現する場合があります。また、断面図により地震活動の立体的な広がりを表現します。図3は、図2の中の青線で区切られた領域を南東方向から見た断面図です。この断面図を見ると、深さ20kmよりも浅い所で地震が発生していることが分かります。

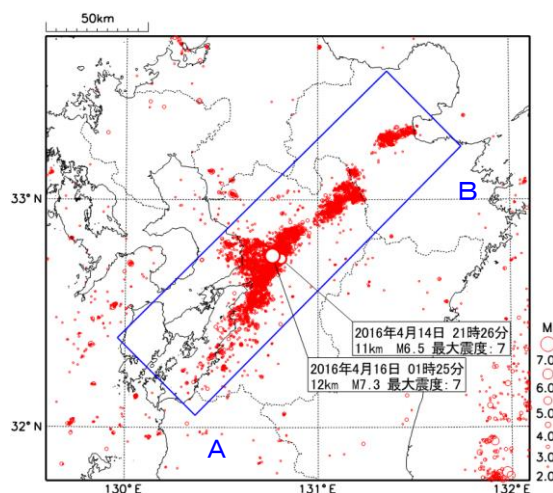


図2 震央分布図

3. 地震活動経過図と回数積算図(図4)

地震活動経過図と回数積算図は、ある領域内で発生した地震の規模や数(回数積算)について、時間の経過に伴う変化を表現したもので、横軸に時間、縦軸に規模や数(回数積算)を表しています。

図4は、図2の中の青枠で区切られた領域内の地震活動経過図と回数積算図です。この図を見ると、2016年4月16日にM7.3の地震が発生した後、時間の経過とともに発生した地震の規模が小さくなり、その数も徐々に減少していますが、活動は継続していることが分かります。

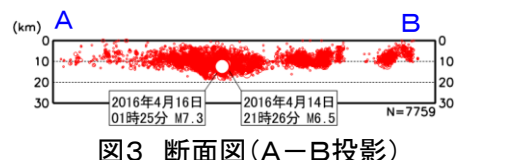


図3 断面図(A-B投影)

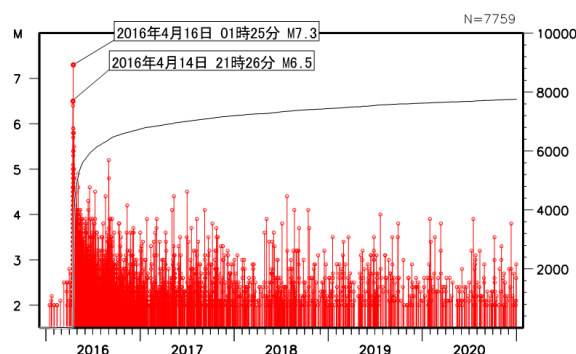


図4 地震活動経過図及び回数積算図